

## 第11回「自閉症に優しい社会」研究会

日時 : 2011年9月11日(日) 16時~18時  
場所 : 金沢大学宝町キャンパス 十全講堂2階大会議室  
参加費 : 無料

### 「多施設共同による疫学研究における研究ガバナンス」

山梨大学大学院社会医学講座教授  
山縣 然太郎 先生

#### 要旨

研究ガバナンスは、研究実施における規則、基本原則、最適な実施の広い範囲にわたり、これらによって研究の質を担保し、常に改善を行うものとImperial College Londonは定義しているが、必ずしもコンセンサスを得ているものではない。具体的に行うこととしては、①基本方針、必要事項、標準化の設定、②これらを設定するための方法の明確化、③モニタリングと評価方法の明記、④研究の改善と公共の安全確保(倫理面での課題を含む)、⑤研究に関わる人の役割であり、倫理的、法的、社会的諸問題の対応は研究ガバナンスの一部である。

近年、生命科学の研究は大規模で長期にわたり、多施設での共同研究が多く行われるようになった。特に、基礎科学を社会実装するためには、人に対する知見が必要であり、そのための疫学研究は数万人から十数万人規模の対象者を長期にわたって追跡する多施設共同のコホート研究が実施されるようになった。しかも、関係する研究者の研究領域は学際的である。これに伴い、中央事務局の役割が非常に重要になってきた。中央事務局は研究対象者のみならず社会全体の信頼を得ながら、精度の高い研究を遂行していくために、研究プロジェクト全体をまとめる役割を担っている。まさに、研究ガバナンスである。

本講演では私の経験から、理想とする研究ガバナンスのあり方とその実現の困難さについて述べたい。

#### プロフィール

1958.4.3山口県生まれ

山梨医科大学卒業、山梨医科大学医学部助手、助教授を経て、1999年に教授(その後山梨大学と統合)。2007年から保健管理センター長を兼任。米国カリフォルニア大学小児科人類遺伝学教室に留学(1991-92年)。現在に至る。専門は、公衆衛生学、疫学、人類遺伝学。

20年以上にわたる妊娠期からの母子保健縦断調査を地域と連携して行っている。この調査で、妊娠初期の喫煙が低出生体重児のリスクである一方、幼児期の肥満のリスクとなることを明らかにした。2006年から09年まで科学技術振興機構・社会技術開発センターの「脳科学と社会」領域で「日本における子どもの認知・行動発達に影響を与える要因の解明」の研究統括を担った。現在は環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)を実施している。先端科学と社会との接点も研究テーマ。遺伝カウンセリングはライフワーク。「研究は住民にはじまり住民に終わる」がモットー。



問い合わせ 金沢大学子どものこころの発達研究センター 竹内慶至 TEL: 076-264-5476  
E-mail: noritake@staff.kanazawa-u.ac.jp / HP: <http://ristex-kanazawa.w3.kanazawa-u.ac.jp>